



平成20年8月5日

各 位

会 社 名 東邦レマック株式会社  
代表者名 代表取締役社長 笠井 庄治  
(JASDAQ コード番号 7422 )  
問合せ先 常務取締役  
管理本部長 弓矢 教二  
(TEL. 03 - 3832 - 0131 )

## 平成20年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年12月期(平成19年12月21日～平成20年12月20日)の業績予想について、平成20年4月30日付当社「営業外損失の発生及び平成20年12月期業績予想の修正に関するお知らせ」及び同日付当社「平成20年12月期第1四半期財務・業績の概況」にて発表いたしました通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 平成20年12月期 通期業績予想の修正

##### ①連結業績予想数値の修正(平成19年12月21日～平成20年12月20日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	18,952	274	275	123	円 銭 24.19
今回修正(B)	17,952	208	209	128	25.05
増減額(B-A)	△1,000	△66	△66	5	—
増減率(%)	△5.3	△24.1	△24.0	4.1	—
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	19,403	321	380	186	36.56

##### ②個別業績予想数値の修正(平成19年12月21日～平成20年12月20日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	18,744	273	283	123	円 銭 24.19
今回修正(B)	17,744	218	228	122	23.88
増減額(B-A)	△1,000	△55	△55	△1	—
増減率(%)	△5.3	△20.1	△19.4	△0.8	—
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	18,968	322	397	141	27.75

## 2. 修正の理由

### ① 連結の修正理由

第1四半期の業績の不振に加え、第2四半期におきましても天候不順、物価の上昇などによる消費者の買い控え及び売れ筋商品の見極め遅れなどにより、紳士靴は微減で推移いたしましたが、夏物婦人靴が全般的に低迷し、特にサンダル類の市況が悪く、販売数量の減少に加え販売単価の低下により売上総利益が減少し、当中間期は売上高 78 億 8 千 5 百万円（前回予想比 9.1%減）、営業損失 9 百万円（前回予想は 5 千 9 百万円の利益）、経常損失はデリバティブ評価損が 5 千万円あったことなどにより 2 千 1 百万円（前回予想は 5 千 7 百万円の利益）とそれぞれ前回予想から大きくダウンいたしました。また、中間純利益につきましては、固定資産売却益が 7 千 8 百万円あったことにより 4 千 8 百万円（前回予想比 65.5%増）となりました。

セグメント別では、日常生活関連事業の売上高は婦人靴 49 億 8 千万円、紳士靴 15 億 1 千 1 百万円、その他 10 億 7 千 8 百万円となり、その結果日常関連事業の売上高は 75 億 7 千万円となり前回業績予想から減少いたしました。高級ブランド事業の売上高は 3 億 1 千 5 百万円となり前回業績予想から減少いたしました。

当中間期の売上高は前回予想から大きくダウンし、第3四半期以降の売上高につきましては、秋冬物商品の受注状況は順調とはいえず、紳士靴は前回予想と同水準で推移すると予想しておりますが、婦人靴は販売単価の低下及び数量の落ち込みなど厳しい状況が続くと予想され、売上高は前回予想から減少すると思われまます。営業利益及び経常利益につきましてはブランド商品を増強し、売上総利益率の改善により、前回予想と同水準で推移すると予想しておりますが、中間期の業績不振をカバーすることは難しいと判断し、通期の業績予想を修正するものであります。また、当期純利益につきましては固定資産売却益があったことにより、前回予想を若干上回ると予想しております。

### ② 個別の修正理由

連結と同様に、第1四半期の業績の不振に加え、第2四半期におきましても連結と同様の理由により、中間期は売上高 76 億 9 千 4 百万円（前回業績予想比 9.2%減）、営業利益 3 百万円（前回業績予想比 94.8%減）、経常利益 0 百万円（前回業績予想比 100%減）とそれぞれ前回業績予想から大きくダウンいたしました。また、中間純利益につきましては、個別では特別損失に子会社に対する貸付金を貸倒引当金繰入額に 2 千 3 百万円計上いたしましたでしたが、連結と同様の理由により 7 千 1 百万円（前回予想比 144.8%増）となりました。

連結と同様に、当中間期の売上高は前回予想から大きくダウンし、第3四半期以降の売上高につきましては連結と同様の理由により厳しい状況が続くと予想され、営業利益及び経常利益につきましては、連結と同様の理由により前回予想と同水準で推移すると予想しておりますが、連結と同様の修正理由により、通期の業績予想を修正するものであります。また、当期純利益につきましては固定資産売却益がありますが、前回予想を若干下回ると予想しております。

なお、平成 20 年 6 月 21 日を合併期日として、連結子会社であります株式会社新宿屋を吸収合併いたしましたので、通期の個別業績予想の今回修正額は合併後の数値となっております。

以上